

8月25日 聖霊降臨後第14主日 ヨハネ 6:56~69「霊であり、命である言葉」 ←

私は水が一番好きです。大好きな辛いカレーも、ラーメンも、おいしい水を頂く前奏です。温泉やサウナも湯上がりの冷たい水のため。バイクにはいつも停車して飲むために、冷たい水が入った魔法瓶を2本括り付けてあります。 ←

冷たい水が好きな私が、コップに入れた水を前に震えています。水を口に含むことは出来ますが、それを呑み込む事が出来ません。喉が腫れて開かないのです。無理に飲もうとすると、傷口を開くような痛みが走ります。喉は乾いています。冷たい水もあります。けれど呑み込む事が出来ない。感染で腫れ上がった喉には、冷たい水は全くの異物です。頭でどれほど水が必要か、旨いか分かっている、これを受け付けようとせず、痛みに苦しみ怯えます。すると「感じなさい。これが人の生きる現実の姿だ」そう語りかける声がします。 ←

耐えがたい強い苦しみに出会う度に、私はいつも、松山俊太郎先生のお姿と、「乗り越えられない痛みは無い」というお言葉を思い浮かべます。先生とは20代の初め、神田美学校でお目にかかりました。いつも和服を召されて、神田の古書店で購入された本がぎっしり詰まったポストンバッグの持ち手に肘まで突っ込んで抱えておられました。その左手は手首から先、右指2本が欠損しています。高校生の時に手榴弾を分解して、1945年に事故に遭われたのです。 ←

長い強烈な痛みの中で、松山先生は痛みを微分する事を試みます。今の痛みを受け止めて、その直前の痛みとの違いに集中します。そして次に来る痛みを、今の痛みとして受け止めてその差分を求めます。このようにして痛みの時間経過による変化を観察しながら、数年をかけて痛みを乗り越えられました。 ←

印度哲学者の松山先生は、いつも物事の本質を見つめようとされていました。痛みは刺激に対する反応です。体にある神経細胞が強い刺激を受けたとき、発した信号が神経繊維を通じて脳に伝わり、特定の場所の痛みを感知します。 ←

しかし私たちは痛みを止める事が出来ます。眠らせて脳の働きを止めるか、神経をブロックして信号を止めるか、刺激を受ける場所の、神経の働きを止めるか、刺激を完全に無くすか。これらを複合的に行い私たちは痛みをやり過ぎます。 ←

そしてもう一つが、痛みの意味を見出して、積極的にこれを味わうやり方です。私たちイエス・キリストに従う者たちには、主によってこの道が与えられています。喜びも苦しみも、痛みも悲しみも、すべてを神の恵みとして、受け入れて味わう生き方です。 ←

それは世の奴隷として人間の尊厳を失うのではなく、イエス・キリストの命の言葉を受け入れて、神の霊と共に生きる生き方です。イエスさまが言われる、
<わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。 >ヨハネ6章56節

にはまさにこのような意味が込められています。

この夏に、私たちはずっとイエスさまを「いのちのパン」として頂くことを、丁寧に考え続けて来ました。食事をともに分け合うこと。正しい食事を頂くこと。旅を続けるために食べること。自分は食事を頂くに相応しいか問いかけること。そして5回目の今日私は、食事が苦しみを伴う現実と直面しました。そして今、私たちはイエスさまから「あなたがたも離れて行きたいか」と問いかけられます。

これはイエスさまのお身体ををいただく聖餐式へのお招きよりも、さらにその奥へと私たちを導くみ言葉です。他の誰が去って行こうとも、イエスさまの元にとどまる。強い決意を持ってシモン・ペテロはイエスさまにお答えします。
<主よ、わたしたちはだれのところへ行きましょうか。あなたは永遠の命の言葉を持っておられます。 >ヨハネ6章68節

この答えに先立ってイエスさまは弟子たちに言われました。

<命を与えるのは“霊”である。肉は何の役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、命である。 >ヨハネ6章63節

ここで霊と言われるのはギリシャ語聖書でプネウマ。風や息という意味を持つ言葉です。イエスさまは永遠の命の言葉、ヨハネ福音書が掲げるイエスさまの本質、世の光であり命の言葉であるロゴスとして、私たちに祝福を与えられます。

私たちはイエスさまの言葉を呼吸して生きていきます。食事は一日に三回から多くて五回。けれど呼吸は一日に二万回を超えます。私たちはイエスさまから命のみ言葉を、酸素のように吸い込んで生きて行きます。けれど吸い込んだ空気はまた吐き出さなければなりません。私たちもまた世界に言葉を発します。

そこで世界に向けて、感謝と祝福、愛と連帯のメッセージを伝えられるのか。または怒りと呪い、戦いと分断のメッセージを発するかで、そこで私たちの世界は大きく変わって行きます。いま世界中には苦しむ多くの人たちがいます。そのひとりひとりの状況を考え、本質を理解した上で、イエス・キリストに導かれて、聖霊の風を豊かに受けて、ともに歩んで行きましょう。愛を運びましょう。